

基本的施策2：【食料】健全な食生活への理解の促進、地域特有の食文化の継承

目標項目	単位	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	目標	評価
食育に関心のある市民の割合	%	61.3	—	—	—	68.4	—	—	—	70.2	90	中間時には7.1ポイント上昇、20歳代の若年層が低い。性別では男性が低い。
朝食を殆ど食べてない市民の割合	%	小中1.8 成人9.5	—	—	—	小中0.6 成人9.1	—	—	—	小中0.9 成人10.2	小中0 成人5	小中学生は進展、成人は微減に留まっており、成人への取組が難しい。
食育実践モデル園の実施園数	園	4	—	—	—	—	28	32	36	40	40	計画通り実施している。
食育等に取り組む小中学校の割合	%	小65.2 中29.4	—	—	—	—	小100 中100	小100 中100	小100 中100	小100 中100	小100 中100	H23年に全校で食育全体計画を作成し、食育に取り組んでいる。目標達成。
久留米産農産物を利用した料理教室の参加者数	人	621	653	673	965	1,024	1,146	1,221	1,001	1,138	800	年々参加者が増加し、目標も達成している。
食生活改善推進活動を実施する校区の割合	%	87	—	—	—	—	95	89	98	96	100	目標にほぼ近く、全校区を目指して取り組んでいる。
郷土料理(がめ煮)を調理することのできる市民の割合	%	58.5 (H16)	—	—	—	53.6	—	—	—	56	65	中間時は悪化している。郷土料理の継承の視点での取組が必要。

前期計画 (H18~H22)

後期計画 (H23~H26)

事業の成果と課題

第1次食育推進プラン(H19~H22)

食育シンボルイベント(講演会中心)
「食育祭 in くるめ」(H20~H22) 800人
「食育講演会」毎年1地区(田、北、城、三)

第2次食育推進プラン(H23~H26)

食育シンボルイベント(体験型中心、子育て世代ターゲットへ変更)、(H26~農業まつり同時開催へ変更)
「食育フェスタ」(H23~) H25: 2,000人、H26: 68,000人

食育推進団体表彰(H24~)

「活動表彰」受賞団体 H24: 10、H25: 7、H26: 2
「功績表彰」受賞団体 H24: 18、H25: 11、H26: 13

食育友の会(H19~、H26末: 210人)・・・農業イベント等の情報提供(郵送4回、メールマガジン12回)

学童農園設置 (H18: 33校⇒H26: 40校)・・・小学生の農業体験(JA青年部への補助)

土づくり広場収穫体験(H21~、H26: ジャガイモ等収穫288人)

地場農産物を使用した料理講習会(年30回、食生活改善推進委員会に委託)

・・・郷土料理(がめ煮)や地場農産物を使った料理講習会

地産地消の情報発信(地産地消マップ、レシピ集、おいしい時期カレンダー、市HP、クックパッド等)

農業まつりでの食育啓発(地産地消推進店通り、ミニ体験講座: くるめ米を使ったおにぎり作り等)

中央卸売市場見学 (H26: 約515人)、50周年記念イベント(H24)、市民大感謝祭市場まつり2014(H26: 11,000人)

- ① 食育推進プランで「農業生産都市の特性を活かした食育」を推進の視점에位置づけ、保育園、小学校、地域などで、各種事業を展開してきた。
- ② 教育委員会や子ども未来部等と連携し、子どもたちへの食育を通じた農業理解の取組は充実できている。
- ③ 食や農に関心が少ない若年層(高校、大学)や男性への取組が課題である。
- ④ 市民の本市農業への理解を深めることに視点を置いた食育推進事業の展開が必要である。

基本的施策(主な事業)

農業生産都市の特性を活かした食育推進

要諦

食育の関心度が7.1ポイント上昇するなど、健全な食生活や食文化への理解向上が図られていると考えられる。課題である年代や性別へ効果的な事業展開によって市民全体へ理解向上を図っていく必要がある。